

海

流初百家叢書

911.3

1

下

流行百家箋句集

秋之部

一事百古編

文月

文月や夜をまゝふりてく

松竹

文月やあけをまゝさうりて

似葉

文月や朝日をのぼりて

赤松

立秋

秋の月やまほさきまゝ竹床几

雅意

あきまじやききとくふふまて

立字

秋の月や松をわかれと

秋法



瀬子ののちをまきゆー音の月

とらふむをまきゆー音の月

まきゆー音の月

まきゆー音の月

まきゆー音の月

樹突入

はく入やまをまきゆー音の月

二百十日

まきゆー音の月

まきの月

まきの月

まきの月

まきの月

まきの月

まきの月

まきの月

まきの月

似葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

葉

まきの月

葉

燈籠

まきの月

葉

まきの月

葉

まきの月

葉

高枕籠

まきの月

葉

まきの月

葉

大文字

まきの月

葉

まきの月

葉

朝のあやむらびしき朝あけ
とよみのけりかきりきり
たけのうまへくまやあけ
あけのうまへくまやあけ

嘉

秋の香のよき
秋の香の中やあけのよき
秋の香のよき
秋の香のよき

秋風

秋風やあけのよき
秋風やあけのよき
秋風やあけのよき
秋風やあけのよき

秋雨

秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき

秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき
秋雨やあけのよき

西 五 島 踏 其 侍 去
地 山 池 雨 具 雨 桐 五 雨 一 山 一 山 一 山

左 五 由 牛 不 蓋 降 砥 一 素
乙 柄 雲 司 舟 志 珠 山 山 山 山

桐の葉もあつてもあつても

木谷

桐核

代より力をあつて 角力も
角力も 介ハかゝる 一葉ハ
後角ハ汗をぬくとも 一葉ハ
村の名も 桐核も 角力も
交照や 大核も 一葉も

桐核 角力 後角 孤舟 鳥谷

一葉

まゝ 新ぬ 桐核 門の 一葉も
お 桐核も 一葉も

此桐 書凡

相一葉

お 桐核も 相一葉
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も

桐核 起山 桐核 桐核 桐核

木核

桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も
桐核も 桐核も 桐核も

古乙 桐核 桐核 桐核

華

Handwritten cursive text in vertical columns, likely a list of names or descriptions.

柳 振 未 成 為 山 為 泰 血 為 流 和 山 源 悟 翠

女郎花

Handwritten cursive text corresponding to the '女郎花' header.

方 班 錦 圖 兼

桂 板

Handwritten cursive text corresponding to the '桂板' header.

物 吉 加 竹 司 溪 高 務 能 古 年

草うらやわく人まておれし
雲よみかたりのしわぬわやぢ
わいあふゆきしるややあふ
日るれいけのいしあやねま
日るれいけのいしあやねま
あらしの

丁未
大泉
栞田
兼六
中世
栞田

萩

あふるく一おやふさねのま
雲のうらやあふりの日を萩乃く
あふるく一おやふさねのま
あふるく一おやふさねのま

不潔
あやね
兼五
世改

稲の花

一穂を雁うて植ていよのふ
戸口までおとあふあし稲の花

彦例
方山

青瓢

何ううておれちいさうま瓢
破ふうし舟ひよまやま

双鳥
北山

西凡

まうまのんわんれん

踏比

萩

萩のあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

深久
吟堂
鳥谷

つやせふきふはるさうりし花のつよ

菊古

草の花

花てりいなきまじりやま乃系
綴るしとくらいつたりまねむ

山子
未成

秋草

秋草のや枯てらんおくるむの出る
折るおもなきも持たり秋乃系

松庵
柏石

蕃椒

是をさくせらふおしむき唐くし
くくそのの葉も花たり唐くし
ちふら花玉ぬよさうきさくし

一具
四揚
此松

鬼灯

引てつる時や唐くし唐くし
鬼灯のやまを病きて玄相力と

松年
起山

虫

老よりりせよたぬ花のたふさる
ゆさくしまよさりしん せねあ
雲さ地やまじりぬまよむりのあ
半のしおみあのをさうきおのせ
誇ててくさのの中よりそらあ
ゆさくしん せねあ 月のは
おしん せねあ 舟のさうりむのさ
せねあ せねあ 舟のさうりむのさ

多上
交水
宗祇
舟舟
吾や
居山
立字

樵

さきさきと木々のありてきり
わくわくと修や木々のありて
さくさく木々のついでありて
きりきりさきさきと木々のありて
けいけいさきさきと木々のありて
けいけいの木々のありてありて

月山
双鳥
又西
一具
波島
寺山

冷

冷むさきさきと木々のありて
枯れさきさきと木々のありて

楓下
義秀

秋

秋の風さきさきと木々のありて

未成

桐

日々にのちのちと木々のありて
桐の葉さきさきと木々のありて
日々にのちのちと木々のありて

燈羽
寺三
宗三

情

情休むもさきさきと木々のありて
情休むもさきさきと木々のありて

折爽
百六

菴

アテにのちのちと木々のありて
菴の葉さきさきと木々のありて

曲阜
鳥谷

秋の

秋の風さきさきと木々のありて
秋の風さきさきと木々のありて

山年

若唐 月夜 舟中 舟のゆくまはる

唐 舟中 舟のゆくまはる

舟のゆくまはる

界市

南

流

三

三

三

三

三

而舌島 舟中 舟のゆくまはる

舟中 舟のゆくまはる

舟中 舟のゆくまはる

舟中 舟のゆくまはる

舟のゆくまはる

舟のゆくまはる

素山子 舟中 舟のゆくまはる

舟のゆくまはる

舟のゆくまはる

鳥津

月山

未成

未成

未成

未成

楓下

給海

山子

吟子

山崎本入るの吟子か
此も〜

伊予守の吟子か

伊予守の吟子か

伊予守の吟子か

伊予守の吟子か

吟子

吟子

吟子

吟子

吟子

吟子

八羽
竹春
長夜

八羽や流のみ〜

竹春

長夜

八羽

竹春

長夜

夜寒

入水の持て来る〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

舟の灯を〜

夜寒

夜寒

夜寒

夜寒

夜寒

夜寒

夜寒

夜寒

夜寒

礼定

礼定

礼定

竹き

うきうきや 根を抄りし 桂皮く

李陵

暴風

吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

陰川

双鳥

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

露雪

吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

芳金

吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

芳英

吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

泳久

秋の暮

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

素見

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

政池

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

桂秋

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

素石

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

成幸

月

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

終く

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

方乙

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

物色

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

羽鳥

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

音英

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

菊圃

あきあきと 吹ぬや 吹ぬや 吹ぬや

鳥床

たゞふもあまうつりうろろの月
うろろの月あまうつりうろろの月
あまうつりうろろの月あまうつりうろろの月
あまうつりうろろの月あまうつりうろろの月

月今宵

月今宵 月今宵 月今宵
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

十六夜

十六夜 十六夜 十六夜
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

赤海 杉 思 南 色 洞 乃 山 春 五 折 夷 孤 舟 寄 三

初紅葉

初紅葉 初紅葉 初紅葉
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

庭の花

庭の花 庭の花 庭の花
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

花野

花野 花野 花野
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

荻麦

荻麦 荻麦 荻麦
あつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつて

野 左 其 山 鳥 谷 南 色 洞 乃 山 春 五 折 夷 孤 舟 寄 三

五五

府書平 穂よふの口身

此 序

府書平 穂よふの口身

祖 仁

府書平 穂よふの口身

一 具

歌 以

第一、穂よふの口身

字 賦

歌以平 穂よふの口身

而 在

花 海

川よふの口身

楓 下

歌以平 穂よふの口身

母 水

穂 芒

かゝ穂よふの口身

書 三

葉 氣

かゝ穂よふの口身

一 法

葉 花

葉の口身

書 中 粒

葉の口身

吟 空

喜 笑 氣

喜の口身

性 雨

小 笑

小の口身

和 流

小の口身

情 舞

穂

穂の口身

四 端

穂の口身

一 粒

穂の口身

一 具

思ひのまゝ粉ふ陰るや 葉の陰
粉干やふきのの凍るゝ葉ふり
年粉やまやふりしる星の粉

不潔 義秀 去凡

物雁

知つた代葉の一枝ふねさふひ
刈きしも田ふ知存のまひさうり

秋夜 終焉

雁

例まふもあきと世いし存のま
村倉の上まゝうけや月のお

丁念 素智

渡鳥

空を飛とえしはきうふやりのた

折旗

粉粉 宿鳥 宿葉 甚

空を飛のまのちいさなわりのた
空を飛やまゝあきと世いし存のま

月城 待所

粉粉やまのまをやるゝ母のま

う燕

宿鳥や海い粉まの粉あひせ
宿葉やまのまのまのまのま

市裁 鳥津

新ふ町のまのまや 宿の折さうり
まのまのまのまのまのまのま

醒花

粉やまのまのまのまのまのま
粉やまのまのまのまのまのま

曲岸

少人合や 粉まのまのまのま
少人合や 粉まのまのまのま

其通 折句

旅心がたつたのちの病は
来りて下りて通つて 旅の神
和治の心と 高の心とを
いふは年 旅の心とを

翠年
月山
去堂
可大

重陽

いふ口の 徳をいふ内なる

万縁

店の月

旅の心 旅の心 店
の月 人の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心

兼香
和流
柳庵
秋長

極意を 書かぬ月 旅の月
木の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心

乃山
管陶
其山
石去
芳吳

十三夜

旅の心 旅の心 旅の心

木谷

雪時雨

旅の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心
旅の心 旅の心 旅の心

松通
松通
杜修

菊

此のよきとぬていんくはよの菊
のくく乃葉志のうきり月の名
アノ一振ふまてくわいり雲のよ
海梅ふ白銀ふまはて菊乃む
葉又くや日少あてく志草梅
外松やいつの世くくの葉のふ
こくのよやとりちくく小海松
移のちの清くひり葉のち
出くく菊のひくく経きお松のち
お出くくやれも葉のくくきうれ
余乃まのく系松終く菊のむ

此 松
番 五
海 松
月 枝
其 山
菊 左
山 子
其 水
月 山
菊 糸
見 糸

紅葉

秋本香
栗の巻

くく葉やふ新くくく松きり
おきり乃くく葉とい日七く葉のふ
くくのよをくきり梓くくま本良
梓くくやじらくくきりて菊の巻

松 三
西 了
糸 学
布 丈

月くくれてく鳥のくくく菊うれ
アノくくくの菊くくくくやくくく
くくくくく一松くくくくく
くくくくく入日くくくくく
くくくくく葉くくくくく
くくくくく葉くくくくく

李 曉
杜 修
菊 舟
菊 古
楓 下

夕の影を小窓のわづらひに
夕の影を小窓のわづらひに
夕の影を小窓のわづらひに

暮
而
后

若菜紫

若菜紫 若菜の紫を
若菜の紫を 若菜の紫を

雲
霞

柿紅葉

柿紅葉 柿の葉が
柿の葉が 柿の葉が

楓
下

末枯

末枯 末の枯れ
末の枯れ 末の枯れ

山
陰

落木

落木 木の葉が
木の葉が 木の葉が

西
月

大川へ
大川へ 大川へ

月
夜

田の
田の 田の

山
子

紅葉

紅葉 木の葉が
木の葉が 木の葉が

芳
芳

行秋

行秋 秋の行
秋の行 秋の行

運
流

ゆ
ゆ ゆ

水
水

雑

谷川や
谷川や 谷川や

英
泉

山に入る日狩のせし 備の秋
於まじや山の字をよきおこせ
晴ふもまじく四い少く 枯水
のし白人くまきし 森の山
静さゆ共け 月ふと秋の夜

下條
杉魚
杜水
丁知
西下

流行百家叢百集

冬之部

一 事 百古編

十月 十月や子をたゆり 社ち

生本割おとゆも 新を社十月

初冬 初冬や初ふるゆり 山中人

初冬やうまの舟く 東土相

初冬のうまの舟く 東土相

初冬のうまの舟く 東土相

関分
社所

為山

山子

社所

兼久

小春

九。一日。白くも山々の小春うぬ。
 人取若あまそ小春やのひりり
 冬ふ風命をまじりて小春は
 美原の岸や小春のめきつと
 波ふりしきまのする。小春うぬ
 心おれとらきふたう。小春うぬ
 けりりる。遠くをまじり小春うぬ

左乙
 素原
 海城
 布衣
 梅思
 あや雄
 親高

初時雨

ふく白く枯穂のききや初時雨
 替つり少りもさうら初時雨
 むらつ葉のぬまも初時雨

素原
 翠市
 赤裁

時雨

新のりやさつのお中お初時雨
 山あまみまらや小春のそら
 病をひいあし一の権うさ時雨
 冬ふれねいまのきりもさう一市も
 一とらとすて。時雨。二時三時
 折りのりの木原か。時雨。三時
 三時。四時。五時。六時。七時。八時。九時。十時。十一時。十二時。十三時。十四時。十五時。十六時。十七時。十八時。十九時。二十時。二十一時。二十二時。二十三時。二十四時。二十五時。二十六時。二十七時。二十八時。二十九時。三十時。三十一時。三十二時。三十三時。三十四時。三十五時。三十六時。三十七時。三十八時。三十九時。四十時。四十一時。四十二時。四十三時。四十四時。四十五時。四十六時。四十七時。四十八時。四十九時。五十時。五十一時。五十二時。五十三時。五十四時。五十五時。五十六時。五十七時。五十八時。五十九時。六十時。六十一時。六十二時。六十三時。六十四時。六十五時。六十六時。六十七時。六十八時。六十九時。七十時。七十一時。七十二時。七十三時。七十四時。七十五時。七十六時。七十七時。七十八時。七十九時。八十時。八十一時。八十二時。八十三時。八十四時。八十五時。八十六時。八十七時。八十八時。八十九時。九十時。九十一時。九十二時。九十三時。九十四時。九十五時。九十六時。九十七時。九十八時。九十九時。百時。

世万
 世依
 松家
 写卯
 鳥津
 松糸
 松出
 市
 告凡

本... 船... の... 本... の... 本... の... 本... の... 本... の... 本... の...

白文 季風 未成 梅室 結衣 吾電 露舟 醒花

初雪

雪

初雪... 雪... の... 雪... の... 雪... の... 雪... の... 雪... の... 雪... の...

双鳥 垂風 雲那 容齋 蓬堂 月故 曲阜 多々 芳矣 竹司

霜よもや雪の跡も乃 傍 出
 風の音もあやしく 吹くや雪の山
 浮けし心もや花のつらさ 雪お寄
 まるるや雪も降りまじらん 雪乃山
 物見の心もあやしく 雪お寄
 万々ねてしりくもさる 中をいれ
 心の珠もあやしく 雪お寄
 葉も雪もあやしく 雪お寄
 雪言のゆりあやしく 雪お寄
 川 氷もあやしく 雪お寄
 井の氷もあやしく 雪お寄

山子
 の燕
 去巻
 芥倉
 梅曲
 菊古
 松竹
 屏市
 菊生
 英泉
 一具

氷 物氷

雪よもや雪の跡も乃 傍 出
 風の音もあやしく 吹くや雪の山
 浮けし心もや花のつらさ 雪お寄
 まるるや雪も降りまじらん 雪乃山
 物見の心もあやしく 雪お寄
 万々ねてしりくもさる 中をいれ
 心の珠もあやしく 雪お寄
 葉も雪もあやしく 雪お寄
 雪言のゆりあやしく 雪お寄
 川 氷もあやしく 雪お寄
 井の氷もあやしく 雪お寄

物氷
 鳥付
 白丈
 松竹
 吾唐
 尺西
 雲雪
 花雪
 杜橋

花の本の葉先一ひの松根より
吹くく月をとりてん木の葉が

結く
松云

山草花

山草花のひしひしと音なるよかたり

由松

山草花の葉をちりちりあうれう

松花

山草花の葉をちりちりあうれう

木谷

山草花の葉をちりちりあうれう

松川

山草花の葉をちりちりあうれう

松矢

山花

山花の葉をちりちりあうれう

逸淵

山花の葉をちりちりあうれう

松竹

山草花の葉をちりちりあうれう
山草花の葉をちりちりあうれう
山草花の葉をちりちりあうれう

在
如
主

山花

山草花の葉をちりちりあうれう

水

山草花の葉をちりちりあうれう

一松

山花

山草花の葉をちりちりあうれう

多

山草花の葉をちりちりあうれう

松

山草花の葉をちりちりあうれう

松

山草花の葉をちりちりあうれう

石

石菖蒲

石菖蒲の根は石に生ずる

菖蒲

菖蒲の根は水に生ずる

大根

大根の根は土に生ずる

芥子

芥子の根は土に生ずる

菖蒲

菖蒲の根は水に生ずる

世菖

山菖

山菖の根は石に生ずる

不嫩

景見

景見の根は土に生ずる

火

火の根は土に生ずる

芥子

芥子の根は土に生ずる

芥子

芥子

芥子の根は土に生ずる

枯草

馬枯て月力々 産しきりあたり

高や松

枯草

草枯てしきり新しれ 暮る神

高や松

枯草

枯し草の果てえりあ入り月くれ

世年

うれたててて ちとわて所へ入らねうれたてれ

来水

一寸ふまへ 宿うとて枯草うあ

月山

而もきて 枯草つらるるれり

高や松

あもねも けて びたる 暮あし

此松

枯草の入りまへし 出月うまゆ

尺西

暮れをわて 暮るなる 枯草

孤舟

野は枯て 夕日かりや 望の宛

山子

おしりぬき 暮る日くれ 枯草

松権

冬木立

かつもりと山入り月や 暮る木立

吟雪

地よりけの かけみ 合りり 暮る木立

五相

暮る木立 かけみ 合りり 暮る木立

中松

水仙

このまを 合りり 暮る中 暮る水仙

為山

ふり水仙の 暮る中 暮る水仙

高や松

寒菊

寒菊と 相の小さや 暮る菊

而后

空葉千日蔭あつしふさうらう
空さく千恒相さうやく風の音

世岐
古風

葱

葱川や内うしうまうの灯の夜く
川了やうまうのうく夜者うれ

鳥法
う燈

水鳥

あさやたまうふあといふふらう
水多やまの枯葉あつしう
あとりやまよわう新も水のし

表年
市丈
信輝

鴨

新うれは四五ぬさうらう池の鴨

瑞雪

ふら早の影ふさうみて鴨の姿
うらむく平入月あさわく池の鴨
あさあなるせうして鴨の月あさ
あさあなるせうして鴨の月あさ

霽市
吉風
由盛
う大

琴琴

あしれあひのささあさうくや琴つひ

世岐

琴琴

あさあさうてあさあさうてりぬ
あさあさうてあさあさうてりぬ

杜水
杜水

千鳥

あさあさうてあさあさうてりぬ

素色

<p> 深き雪の影に梅の香をうつり 妙の月影に松の影をうつり 竹の影に松の影をうつり 石の影に松の影をうつり 春の影に松の影をうつり 五の影に松の影をうつり 去年の影に松の影をうつり 杉の影に松の影をうつり 西馬の影に松の影をうつり </p>	<p> 雪 月 竹 石 春 五 去 杉 西 </p>
---	--

<p> 新緑の影に松の影をうつり 春の影に松の影をうつり 雪の影に松の影をうつり 月影に松の影をうつり 竹影に松の影をうつり 石影に松の影をうつり 春影に松の影をうつり 五影に松の影をうつり 去年の影に松の影をうつり 杉影に松の影をうつり 西馬影に松の影をうつり </p>	<p> 雪 月 竹 石 春 五 去 杉 西 </p>
--	--

雪 月 竹 石 春 五 去 杉 西
 雪 月 竹 石 春 五 去 杉 西
 雪 月 竹 石 春 五 去 杉 西
 雪 月 竹 石 春 五 去 杉 西

紙衣

五三三ふ山の日記云云 抄云云

下知

紙衣

高野一云云云云云云云云

白夫

紙衣

ふの紙と抄云云云云云云云云

西馬

紙衣

云云云云云云云云云云云云

并舎

紙衣

信守云云云云云云云云云云

乃山

紙衣

抄云云云云云云云云云云

松竹

紙衣

門云云云云云云云云云云

南々

紙衣

實云云云の利云云云云云云

移執

紙衣

干菜 枝代云云云云云云云云

義香

紙衣

納豆 所云云云云云云云云云

交水

紙衣

納豆汁 粉油と云云云云云云

素見

紙衣

風呂吹 風呂吹云云云云云云

魚糸

紙衣

所不越 云云云云云云云云云云

昔丸

紙衣

所不越 婦人云云云云云云

一具

紙衣

十夜 抄云云云云云云云云云

陰川

紙衣

十夜 抄云云云云云云云云

陰川

白雲のいづく十指のぬりぬれ
肩披ふあやう十指乃ゆる車

旭
暮年

連摩忌

ささくささくささくささくささく
ささくささくささくささくささく

四
茶古

口笑

等のつらぬ人よ憂にけり夫海

信
静

秋野中むく日暮りてさびしき海

道
流

波のうらぬらうらや美か

山
子

たよりなき指犯さすささくささく

夢
回

雜

あつたてまつらるる二日月

亦
后

たきくさくさくさくさくさくさく

雪
通

指さすささくささくささくささく

山
子

霜月

霜月と月の指さすささくささく

月
夜

霜月

霜月と月の指さすささくささく

山
方

冬

冬山と夕日のぬりぬれ

白
丈

霞

霞のうらぬらうらや美か

吾
雲

霞のうらぬらうらや美か

指
法

雪の初る小餅ふきりる 寒く那
あついでにやうし又少く委う糸
さしつゝ心まふくさる ねうぬ

幸水
一徳
宇底

神楽

神楽 神水や移くねう糸人の夢
ねやう糸さうの静々 神水便
雪野のちちふささささ 神水ね

義香
英魚
一具

亭の入

亭の入 静きる 甚の馬や亭の入
埃くさう糸の玉糸や亭の内

芳英
山方

冬梅

冬梅 活てう梅は清う 冬乃梅
冬乃梅さう枝りの 埃さうり
はきうか布も生おけ 冬乃梅

難高
四松
号英

研途

研途 ちかちか 生よ 凝うら ぬきぬ
あやかしくの用するやあさ研途は
ねうふよとまふさぬきぬさうり
いそうさゆかゆ ぼあるぬきぬ
生治まる人さ 研途さうりさ

折家
善整
双鳥
松於
山子

新雪のい

新雪のい 雪のい 雪のい 雪のい

松久

若手いのさきりくふ入日ふ

百古

煤掃

煤掃の和をよきねるさうれ

嘉五

まゝ掃て十日目のさかちと赤

出月

掃てぬちをさかたつ其や煤掃

茶古

掃てぬちや赤ふり於のりぬり

素面

解掃

甲の和や 條掃おふあうま

山子

結掃をぬり乃とや 條むりり

玉足

解をやゆ先仕業と思ふんは

務家

来忘

年々や 龍の海をゆや

仙景

物来乃人いまのまは 年忘

白丈

年内
立春

やまのうら 年のいふさかたき五日

松竹

心をとけしきハハらうり年の内

蓮堂

春待

あまのつや ちかききり 春待つ

孤舟

まけや ちかききり 秋心

雨舩

年暮

年暮ちる 海をよきさかたき 年の暮

石梁

冷風の雪を掃てさかたき 年の暮

秋雨

埃かきし 札乃うしよやしの言
鶴の午ぬ時寝ひくう年の言
減の言のそり取らも白の言

宗原
ちん丸
松下

裁乞

柳もととわししきもや夕鳥
柳もや眠つて物を話さり

和古
和清

園見

月をふりつらむとて思ふ
おきつる門をふつ 思ふうさ

為正
清高

大年

六年いあの 宴かよるおら

宗原

大年やさきうみおのまき
大中一の朝り口や山おらし

一具
西馬

歳暮

年の豆梅の春もきうらり
いらふとて反古よとせんす古舞
月形もりの言もりや年の市
言ぬのわてを言さうり言ぬり
陰夜の外も朝の言やをぬり

四郎
竹静
丸安
山方
松室

追加

柿のちや柳を侍ふ初むをら
 櫻を〜の花きやちうづ櫻
 多りあて月と静や櫻の人
 畔うらりまらふも櫻のまはら
 華清留めたりとま〜やせのち
 藤のまはやく〜思ひ思ふぬ
 雲舟やまよと〜ま〜月の人
 年やまわりの日〜うら〜さ

抱 儀
 岳 陰
 峰 山
 西 側
 岸 一
 鳥 外
 菊 香
 菊 飄

ち〜〜向の海ゆやを歌のち
 ち〜〜のち〜〜〜今年末
 歳り〜〜るや〜引ゆ〜ぬれ
 藤のまはやく〜思ひ思ふぬ
 華清留めたりとま〜やせのち
 藤のまはやく〜思ひ思ふぬ
 雲舟やまよと〜ま〜月の人
 年やまわりの日〜うら〜さ

相 古
 杜 涼
 沼 密
 鳥 呼
 甫 崖
 法 回
 吉 好
 友 屋
 時 物
 峯 山
 平 香

百鳥や沙も木陰もよき回柱
松葉の枝も掃きもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も
松葉をわらふもよき花も

秀何 志乃 松葉 松葉 松葉 松葉 松葉 松葉 松葉 松葉

又教つらさの文もよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も
松葉のつらさをわらふもよき花も

松五 朱家 响外 松家 赤哉 史山 立綱 松支 月之 所勢 云子

まゝに入る海に中ては池毛が
太一のやうに杜山のゆゑ移
村ののちうぶるや 村 林
うゑひまや 後徳うゑを 徳うつ
よゝゝゝのゝゝゝのゝゝゝの
まゝ甲や 只そゝゝの文々う
徳うゑゝ 村うゑゝゝゝゝ
十月の 新うゝゝゝゝ物
新うゑゝゝゝゝゝゝゝゝの
濁うゑゝゝゝゝゝゝゝゝの川

碩水
中比雄
冬十
心松
松推
勝徳
石堂
五八九
風阿

名報

遷

流

江戸権佐橋内
号 篠花園

意瀬

氏

四

瑞

全霞之園
号 風草菴

福永

氏

不

深

全浅草新寺
号 不可得菴

吉祥

院

萬

古

全中橋上換町新道
号 給掛菴

大川源次郎

詠

久

全飯倉片町
号 即事菴

吉田久四郎

山

子

全中橋御油坐
号 對松亭

込山弥七

山方

江戶京橋新有町
号方草舎

池田大次郎

波群

全室町一丁目
号屋神子

室伏治良吾齋

下知

全武庫
号事仙子

高杉三良左門

松什

全中野有町
号無有菴

鈴木安五郎

南々

武藏冲順
号放毒齋

斎藤安兵衛

寄三

全
号不知菴

河田甚平

布史

相模慶甲郡小野村
号柵亭

系屋卯右工門

赤戸雄

安房雜山
号老拙居

鈴木氏

未成

上総東金町
号赫山軒

大野傳吾齋

柳塘

全
号知新齋

大野傳右工門

露雪

全
号白齋

岡崎屋左平次

交水

下総千葉北原新田
号造節亭

清宮憐助

喜年

全
号秋臺

萩原茂右郎

魁羽

全
号馬加村

中臺弥右工門

茶堂

上野大戸敷
号一嶺居

加部安十郎

關市

全相生境野
号王花藏

石井治兵衛

梅 雅

上野寺梅
号 齋 梅

新井傳右工門

如 聖

下野那須黑羽
号 桃 聖 亭

淨坊寺圖書

義 喬

常陸水戸
号 自 輝 亭

本間益齋

五 子 如

陸奥浪貴川
号 晴 霞

市原氏

英 泉

全杉四歌
号 鶴 冠 亭

遠藤久治

後 山

全羽米沢御屋所
号 梅 窓

高橋六右工門

月 山

全 茶 沢
号 真 如 亭

桃源院

孤 舟

越后中条
号 清 窓

塚野正七

有 隣

全
号 龜 石 亭

須貝四兵衛

幸 水

全
号 柳 之 舎

奥村伊右工門

五 相

全長岡
号 谷 亭

島岡甚七

竹 司

全

新井仁右工門

都 盤

越中富山
号 鞠 中 庵

稻波長兵衛

晚 籟

能登輪島

松屋伊兵衛

極 石

在 辰 按
号 包 袖 舎

村松三藏

其 通

丹波磐山
号 半 隱

依田権八

桂秋

祖馬大屋上山

北垣和兵齋

起山

全大屋

尾寄茂太郎

魚泉

播代新野也
号松蔭舍

梅谷三右卫門

吾雲

全高砂浦
号生竹山

觀音寺

尺西

全魚寄
号樂真堂

大内藤左卫門

鴉雛

全赤穂
号凉朝舍

安永林右郎

吟雪

全
号薛荔窓

三才清六

真層

美作洋山
号千乘恒

川端曾一郎

玉芝

備前夢川
号守粹

萩原次良右衛門

甘古

安藝廣島

和泉屋所平

梅思

全
号花巻菴

志治重輔

閑雲

備前室積
号梅石

輝岫菴

素兒

全宮市
号且卷園

河内屋榮三郎

真風

石見鳥取村

宮脇周之助

秋曲

修治
号朧山亭

榎田氏

万條

阿波徳島
号豊園

徳摩利右卫門

菊園

伊与中松
号静佳園

長谷部氏

宗雲

今松山

吉尾慎八

佳笑

今松山
今松山喜村

村瀬賢之助

德々

肥前大村
号三時菴

川原元次

静泉

德大郡松室町
号玉山亭

高野助八

榎爽

大隅國分
号野易以号号波行

山元市左工門

滄川

全
号程飛倉

林傳左工門

季風

全
号方松樓

小野幸四郎

和流

全
号稻波園

見枝清次郎

双鳥

日向延園
号惠生菴

後藤新兵衛

杜水

遠仁見竹室
号棟園

加藤幸次郎

聽雨

全
号龜藻

前島傳吉

而怡

尾張名古屋

伊東道喜

鳴津

全鳴海
号新龍亭

永井松左工門

本曠

全下一色

服部林左工門

春整

伊勢洞津
号時之居

沽川利兵衛

蕙雨

伊勢竹川
号叢之園

高本典膳

蒼氏

伊賀上野
号笠菴

森喜兵衛

柳下

近江守樂多羅尾
号美九堂

辻嘉八郎

世岐

全堅田浦
号蕭々斎

木村六右卫门

錦城

康遠江佐
号春院亭

村田恭祐

關那

紀伊高野山

龍生院

露舟

全陽茂
号秋琴堂

深專寺

黍丘

全廣浦
号桂菴園

岩崎重次郎

可憐

大和吉野
号深茂下

永田藤兵衛

木谷

全
号日拙

室長平

玉坡

全
号竹谷

寂靜寺

宗眠

全上月
号上月菴

中園八郎

洪松

和泉攝南平町
号梅蔭居

松本雅助

白丈

全
号蒼芳菴

五大院

拾海

河内交野郡津田

山本伊兵衛

容齋

根津東須戸

友國甚五郎

應需

梅高書園

嘉永四年辛亥十一月

6272



嘉永五年壬子春發行

京都 勝村 治右衛門

大坂 秋屋 太右衛門

仙臺 伊勢屋 半右衛門

名古屋 永樂屋 東四郎

山吹 北條 忠兵衛

江戸 英 大 助

同板元 須原屋 茂兵衛

